

意思決定プロセス支援 投資価値定量的に評価

カッパーリーフ

カッパーリーフ・テクノロジーズは20年以上にわた

り、電力・ガス・水道などの重要なインフラを管理する組織の洗練された意思決定プロセスを支援してきた。海外はもちろんのこと、国内でも既に複数の大手電力会社で採用されている。

同社独自の意思決定分析ソリューションは、組織が複数の投資の中からいつ、どれに投資すべきかを計算し、コスト、リスク、パフォーマンスを最適化しながら、最高の投資価値を創出することを支援する。この最適化において肝になるのが価値の「定量化」だ。組織が重視する全ての要因を体系的に定量化し、プロジェクトによってポジティブ・ネガティブに影響を受けるすべての要因の価値スコアを組み合わせることで、プロジェクト全体の価値を

算出する。

さらに投資が企業の戦略目標にどれだけ貢献するのかを計る上でも定量化が重要となり、バリュ

ー(価値)フレームワークを使うことで投資を体系的、定量的に評価することが可能となる。

企業の戦

略目標の一

部としてE

SG(環境、

社会、企業

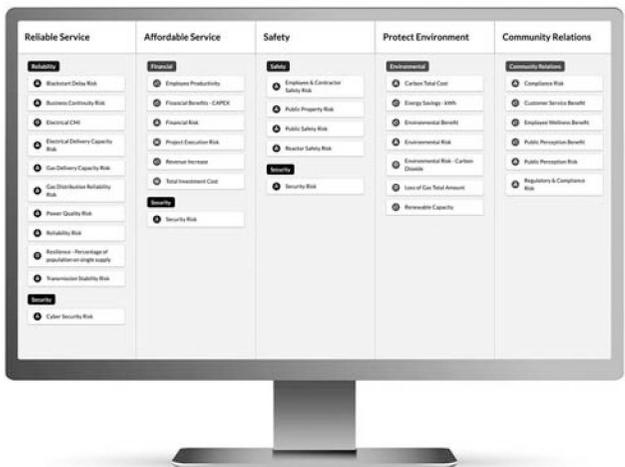
統治)への

対応を組織

に求める動

きは、徐々

に高まって



バリュー(価値)フレームワークの
概念一覧

きている。

図はバリュー(価値)フレームワークの概念を示したもので、各企業目標に対して様々な測定可能な基準が定義されている。投資プ

ロジェクトの価値は、表の中で強調されている一つまたは複数の基準に対する貢献度を合計することで定量的に測定できる。ESG基準は既存のバリューフレームワークに追加することも、新規で構築することも可能だ。これにより、すべての関連するESG基準が投資とひもづけられ、投資理由が説明可能となり、適切に評価されることとなる。さらに「価値」が組織の共通の言語となり一貫した判断の仕組みを構築することとなる。

次の段階として多基準の意思決定分析ツールを使用して最適なプロジェクトポートフォリオを選択することが挙げられる。これは、すなわち経営資源の制約をすべて尊重しながら価値を最大化するために、組織はどのような投資プロジェクトをいつ実施すべきかを決めることだ。このようなシステムを採用することにより、日本の多くの組織がガバナンスにおいて十分な透明性を備えていないという投資家からの懸念を払拭するものとして役立てることができる。